

意味のある「導入教育」を目指す  
教育文化学科の試み  
—教育学基礎演習の取り組み—

教育文化学科

楊 奕

2011年1月26日

# 一、創造的学力の第一歩としての「導入教育」

## 1. FYSのねらい

(1) 勉学態度の養成

(2) 自習的学習方法の習得

- 図書館の利用
- 資料の収集方法
- 教育に関する基本的文献の読み方
- レポートの作成方法

# 「導入教育」

## 2. 教育学基礎演習のねらい

- (1) 教育文化学に関する確かな基礎知識を習得する
- (2) 教育に対して幅広く学び、2年次以後の研究の見通しを立てる
- (3) グループワークを通して、多様な意見をまとめる力・相手に分かりやすく伝える力を身につける

## 二、教育学基礎演習の取り組み

1. 教育文化学科専任の教員による専門領域についての講話を行う
2. 教育をめぐる様々な現代的課題について、グループ別に課題を設定して研究・討論し、その結果を発表する

講話(1時間)、質疑応答(15分)、グループ討論(15分)

### 三、意味のある「導入教育」とは

#### 1. 学生に何を求めたいのか。(達成目標)

- 知らないことを知るように
- 知っていることをもっと深く知るように

#### 2. その前提:

- 知的関心を持たせること: 知的世界に学生をお招きする
- アカデミックに知る手法を身につけること: 読む、聞く、書く  
と話すことを総合的に行う

# 意味のある「導入教育」とは

## 3. その方法:

- 考えるための一定の「型」を提示し、個性的に活用させる

例えば質問の聞き方

なぜ、これは～だろう？      なぜ、これは～ではなかったの  
う？もしこれが別の～だったら、どのような結果になった  
だろう？これは、他の場面でも成り立つのだろうか？この現象の背後にある原因は何  
だろう？なぜこの結論は妥当性があるといえるのだろうか？どのよ  
うな条件がそろえば、これは成立するだろうか？この試行で明らかになっ  
た仮説は何だろう？期待する現象を生み出すためには、ほかに何が  
かけているのだろうか？そもそも、～ってなんだろう？

(田中博之『フィンランド・メソッドの学力革命』明治図書、2008年、64頁)

何をいいたいのかを常に念頭に置きながら考えること。

- 学生間の相互評価を取り入れる

# 教育文化学基礎演習

# グループ発表評価表

	テーマの設定	論理性①	論理性②	結論	プレゼン
	着眼点はおもしろかったか？	説明は分かりやすかったか？	主張の根拠は明示されていたか？	どこがおもしろいのか明確だったか？	発表態度、時間配分などは適切だったか？
班					
	総評				
班					
	総評				
班					
	総評				

## 四、今後の課題

1. 質問しやすい環境をいかに作るか
2. 学生のコメントをいかに活用し、さらに、学生の学習にいかにつなげていくか
3. 同志社学生の特質をいかし、その質を高めるには、これまでの研究成果をいかに利用するか